

農福連携インタビュー第2弾！ ～加工作業（さつまいもの干し芋づくり）～

岡崎市は、農福連携を推進しています！

今回、農福連携を実施している一組の農家さんと福祉事業所のお話を伺いました。

【今回お話を伺った農家さんと福祉事業所の紹介】

農家の内藤さんは、週1回程、さつまいもの干し芋への加工作業を福祉事業所アルクスに委託しています。アルクスは、支援員1名と施設の利用者約5名で取り組んでおり、作業内容は、蒸したさつまいもの皮むき、カット、乾燥の工程で、片付けまで行います。

農家さん：内藤さん（福岡町）

・内藤さんは、「おかざき幸田さつまいも☆プロジェクト」に参加しており、同プロジェクトはSDGs達成に向けた遊休農地の荒廃防止や食料生産向上、地域農業を守ることを目標としています。

・さつまいもや茄子、米を栽培しています。



内藤さん

福祉事業所：特定非営利活動法人アルクス（岡崎市牧御堂町）

・就労継続支援B型事業所を運営。

・利用者さんがそれぞれ自分の得意を活かしたスキルアップと、やりがいと経済的自立の両方を目指しています。

・自社で野菜等の栽培もしており、キッチン部門でのサンドイッチやお惣菜に使用しています。他にJAから使用済みの米袋を頂いて、エコバックの作成、販売もしています。

農福連携についてお話を伺いました！

Q、農福連携を実施したきっかけはなんですか？

A、内藤さん：露地でナスやお米、冬場はさつまいも栽培しています。さつまいもは加工しやすく、その先の展開が広がると思い栽培を始めたのですが、人手が少なく忙しすぎて、やりたくてもできない状態でいました。そんな時、農福連携の話を聞いたことがきっかけです。

Q、農福連携を実施してみていかがですか？

A、内藤さん：最初はどこまで依頼できるか等不安もありましたが、干し芋の加工作業をお願いしました。

実際は、支援員さんが利用者さんに指示やフォローをし、私は作業しやすい環境を整えるだけだったので非常に助かりました。逆に、加工へと一歩踏み出せるきっかけを作ってくれたので感謝しております。

Q、農福連携を行うにあたって、なにか工夫されていることはありますか？

A、内藤さん：アルクスさんに作業を委託してからは、お互いがより良い関係性、より良い作業効率を獲得するために試行錯誤を重ねました。

アルクスさんは、自所でクッキーやシフォンケーキを作って販売しているので施設内にキッチンがあります。最初は内職として施設に芋を運び、作業していました。そして、加工した芋をまた持ち帰っていたのですが、とても重労働で大変でした。

そのため、蒸し器や乾燥機をこちらの作業現場に準備して、利用者さんに来てもらうようにしました。結果、運搬の重労働が軽減され、アルクスさんとの関係性も安定し、作業効率も上がりました。

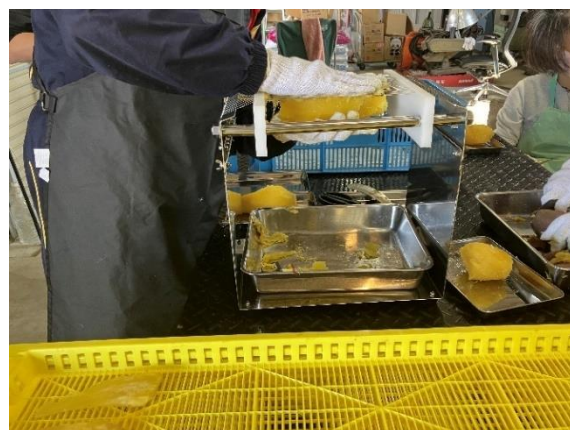
A、アルクス支援員さん：利用者さんの特性を見てどの作業をするか考えています。例えば芋をカットする作業は手先が器用な方に作業してもらったりしています。商品にするものなので、不良品等を出さないよう配慮して、それぞれ得意な分野を作業してもらいます。

Q、今後課題はありますか？

A、内藤さん：今後、さつまいも栽培の規模を拡大する予定で、人員の確保が課題となります。さつまいもの植え付けや収穫作業、草刈り等も農福連携を活用して、他の事業所さんとの関係も築いていきたいです。



皮をむく作業の様子



専用の機械カットする様子



カットしたさつまいもの乾燥の様子



カットしたさつまいもを並べる様子

農福連携等の商品について

今回アルクスさんが加工した干し芋は、金色に輝き、とても甘く仕上がっています。

その干し芋は、ふれあいドーム岡崎（青野町）、道の駅藤川宿（藤川町）、幸田憩の農園（額田郡幸田町）等で販売しています。

足を運んだ際には是非商品を手にとってみて下さい。可愛いイラストが目印になっています。



可愛いイラストが目印の干し芋